

成果報告書

担当者：

講座名：地域政策入門<より良く働ける環境づくり－取り組みと責任－>

実施日：令和4年7月30日（土） 13：30～16：20

受講者数：40名 定員数：80名

受講料：無料

目的

岩手大学人文社会科学部地域政策課程では、法・経済・環境の総合的視点から持続可能な社会づくりの諸課題に取り組み、地域社会に貢献できる人材の養成を目的として教育研究をおこなっている。今回の公開講座では高校生・一般市民を対象に、「より良く働ける環境づくり」をテーマとして、環境学分野から職場に潜む有害物質、法学分野から使用者の安全配慮義務、経済学分野から企業の働き方改革について報告した。それらを受け、職場の使用者にはそれ相応の責任が存在すること、よりよく働ける職場を構築するために多様な取り組みが必要であることなど、「働く場」に存在する問題の多面性を理解することを目的とした。

活動実績

全体司会と総合討論を地域政策課程長竹原明秀（環境生態学・教授）が担当した。

第一講義「職場に潜む有害物質とその管理」を寺崎正紀（環境リスク学・教授）が担当し、職場特有の化学物質による健康被害とそのリスク「職業性ばく露」が存在することを紹介し、安心で快適な職場環境を作るために、国や事業者は被害が起きる前にそれらを発見・対策する必要があることを論じた。また、紙幣にも健康リスクが存在することを紹介した。

続いて、第二講義「自然災害時の使用者の責任」を河合壘（労働法・社会保障法・准教授）が担当し、労働法における権利と義務、安全配慮義務を紹介した上で、予期しない大規模な自然災害が発生した場合、使用者はどこまでの安全配慮義務を負うのかという問題を東日本大震災時の裁判例から推論し、平時からの予防が必要であることを論じた。

最後に、第三講義「企業の社会的責任と企業における「働き方」・「働かせ方」」を渡部あさみ（経営学・人的資源管理論・准教授）が担当し、企業と労働者とは「働かせ方」・「働き方」が異なる点や日本の労働時間に関連する諸問題、先進的な企業や岩手県内の企業における「働きやすい職場」づくりに向けた取り組み事例を紹介し、これらの働き方改革の背景や内容、それによる企業、労働者、社会に与える影響などを論じた。

三つの講義の後に受講者の質問シートを回収し、質問に対して各講師が答えた。

今後の課題

新型コロナウイルスの感染者あるいは濃厚接触者の欠席を含め、予防の観点から対面による参加した受講生はやや少なかった。しかし、受講生の満足度は非常に高く、将来の進路を考えるにあたり役に立ったと評価された。これらの背景には将来、岩手大学人文社会科学部（地域政策課程）を志願あるいは興味を持っていること、高校生を前提に容易な内容としたことなど、十分な対応であったと判断できた。今後は公開講座での講義を収録し、（ウェブ）オープンキャンパスなどでの利活用を考えたい。